



ごとうさんは、建設会社での仕事と作家を両立させて子供のために絵本を描いています。

現代を生きる

絵本を通して 親子へメッセージを贈る

絵本作家

ごとうじゅんのすけ^{さん}

(若葉)

カエルのガウル海へ出る

〔発行〕文芸社ビジュアルアート 〔定価〕945円

カエルなのに泳ぎが下手なガウルが、ふとしたきっかけで海へ出て様々な困難を乗り越えて成長する物語。

町内では、当別幼稚園、当別小、西当別小、ふくろう図書館、西当別コミセン図書室に置かれています。購入は十字屋書店または全国の書店で注文できます。

絵を描くことが好きなのですね

小学校の頃から絵を描くことは得意でした。中学生のときに教頭先生から「ごとう君は社会に出ても絵を描き続けたほうがいいよ」と言われたことが今でも胸に残っています。工事現場で怪我をして入院したときのことで、病室に飾られた花を見て「何てきれいな色をしているんだろう。これを水彩絵具で描いてみたい」と思い、また絵を描こうと決めました。

それからは、帰宅して子供を寝かせてから1時間絵を描くことにしています。

何か新しい表現はできないかなと集中して描いていると仕事の疲れを忘れるほど時間はあっという間に過ぎていきますね。

絵本を描こうと思ったきっかけは

高校を卒業してから、漫画家になりたいという夢があったのですが、建設会社に就職し、結婚して子供が生まれてからは、日々の生活に追われる毎日でした。

そんな中、子供の5歳の誕生日に母親が2冊の絵本をプレゼントしてくれたのです。

私の読み聞かせに子供が何度も「読んで」とせがんでくる姿を見て「よし！おとうがもっと面白い本を描いてあげよう」という気持ちになり、子どもに夢を与えられる、やさしい気持ちになれる、チャレンジ精神を持つことができる絵本を描こうと決意しました。

今回は、文芸社ビジュアルアートが主催する賞応募で社長賞にノ

ミネートされたことから、出版することになりました。自分で描いた絵本を子供に読んであげると、子供のドキドキ、ワクワク感が直接伝わってとても楽しいですね。

絵本を通して伝えたいことは

「カエルのガウル海へ出る」では、ガウルの姿を通して、難しいことに挑戦して成しえたときには感動があることを伝えたいです。現在は、3作目を執筆しているのですが、夢を持つ事の大切さや地球環境の尊さをテーマにしています。

絵本を通して親子でふれあい、様々なことを考えるきっかけになればいいですね。